

## 第十章

### 付随的な調査：初期の草本書、薬草書

草本、植物、薬草書の歴史はヴォイニッチ手稿を研究する人にとっては無視することのできない分野である。以前セクション 3.3.1 と 3.3.2 で見てきたように、多くの研究者達はこれらの草本、薬草画と他の中世・ルネサンスの美術作品中に描かれたものを関連づける様々な試みを行ったが、成功は得られなかった。初期草本書に関する一般的な多くの良い研究書を研究者は手に入れることができる。Arber (1953), Rohde (1922), Singer (1927)は一般的な初期草本書の歴史を扱い、特に古期英語で書かれた草本書に重点を置いている。Biedermann (1972)はこれら主題の一般的な扱いに加え、植物、魔術、医薬の美しい絵の膨大なコレクションを提供してくれる。Cockayne (1866)と Grattan (1952)はとても良く Anglo-Saxon の植物書を扱い、そしてそれらの歴史や資料もたどっている。薬草の歴史についての優れた扱いは Singer (1928, 1962), Taylor (1922), Thorndike (1963)がある。そして Thorndike (1923-58)は他の科学者達の中から個別に医師の作品についての詳細を提供している。Tiltman (1968, pp. 11-13)は短いが、ヴォイニッチ手稿との研究に関連して、とても優れた初期草本や植物画の歴史を提供している。続く調査はこれらの資料から得られたものであり、かなり要約したものであるが、読者にとってこの主題や作品に関する導入となるだろう。

最も初期の植物画と記述は、間違いなく西洋知識、哲学と同じくギリシャで見つかる。アリストテレスは植物に関する論文を書いたといわれている。この作品はかなり早い時期に失われてしまい、イスラムの中で残ったギリシャの知識が中世の学者に伝わったものの中にも残ってはいなかった。しかしアリストテレスの弟子である Theophrastus of Eresus はギリシャの「rhizotomists」のために資料として作品を書き上げた。(この「根を掘る人達 (root-diggers)」はしばしば薬草に無知であり、迷信に基づき薬草を集めた当時の薬剤師、医師、医薬品の供給者のことである。) 紀元前 1 世紀にはこの rhizotomists に分類されるメンバーで、特に才能があり、非常に知識を持っていた Crateuas という人物が一連の植物画を初めて編集したことが知られている。Crateuas (紀元前 132-63) は小アジアのポントス王 Mithridates VI Eupator の医師であった。彼の植物画はとても正確に、そして実物を見て描かれていて、それぞれの絵には短い薬効と植物の使い方が書いてあった。

しかし Crateuas のマニュスクリプト作品は現存せず、オリジナルの絵からの改訂版または抜き出したものが、起源 1 世紀、アジアのローマ軍の医師 Dioscorides Anazarbeus の *Materia Medica Libri Quinque* の中に残されている。(Dioscorides 1959) Dioscorides の文章、多くの植物画は美しい写本として作り直され、紀元 512 年ローマ皇帝の娘 Juliana Anicia に贈られた。この写本は Juliana Anicia Codex と呼ばれ、ウイーンに現存し、一部分の複製は Tiltman (1968)によると Garden Library of Dumbarton Oaks にあるようだ。Biedermann (1972)と Singer (1927, 1928)は多くの精巧なこれら絵を載せ、その実物のようで、美術的な質は専門家達から、最高ではないにしろ、中世までの植物書の中で抜き出ているといわれている。その初期の年代にも関わらず、Juliana Anicia Codex は初期の草本書の歴史の中で、

その後何世紀の間もほんの数人によってしか到達されなかった最高点にある。

初めて植物をアルファベット順に並べた草本書は紀元 100 年頃の Pamphilus が編纂したものである。多くの初期草本書には植物を並べるときにいくつかの並べ方があり、身体に対する薬の効果を書述するために、通常頭から始まり足で終わった。Pliny the Elder は彼の *Naturalis Historia* (A.D. 77)の中で、膨大な 37 巻からなる百科辞典的作品を編纂し、当時の自然科学全てを網羅した。これは信じられていた魔術、迷信そして老婆が語る物語、神話、鳥、野獣、植物、薬、金属、鉱物の観察、その他多数の主題に関するもので、中世に大きな影響を与えた。Dioscorides の長く読まれた作品に基づく草本書が Apuleius (また彼はしばしば *The Golden Ass* の作者と区別するために「偽 Apuleius」と呼ばれた。)により紀元 400 年頃編纂された。この作品、*The Herbarium of Apuleius Platonicus* は初期草本書の中で最も知られ、広くコピーが作られた作品の一つとなった。これは形を変え中世後期・ルネサンスまで残り、そして初の印刷された草本書となった。

上で述べた「奔流」と少数の他の影響力を持つ作品を除き、植物を実際に調査したものはないし、自然にある実物の植物を研究する試み、そして後の現代の科学者のような客観的で経験による薬草の効果を試す試みはほとんどなかった。ギリシャの草本書はラテン語に翻訳され、写しが何代も繰り返されたことにより、その過程で絵は劣化し、だんだんと歪められていった。植物の名前と描かれた種はもちろん地中海地方や小アジアのものである。古代・中世の植物学者達は他の地方には異なる植物が生育しているとは考えも、理解もしなかつたであろうと思われる。これらの名前はしばしば失われた、もしくは失われつつある古代言語で書かれ、それらは絵と共に注意深く書き写され、もはや理解できない古代の形で表された。

英国の修道士、そして大陸の修道院ではごちゃ混ぜになった外国産の植物や名前を彼らの修道院の庭や田舎にある植物相と一致させることに力を費やした。彼らの努力の結果として、様々な外国語による植物の別名の長いリストが作られ、用語集として草本書に付けられることになった。我々はいったいどれくらいの不幸な患者が、その避けられない誤認により薬として毒のある植物を服用し命を落としたのか考えずにはいられない。Singer (1928, p. 185)は議論の中で Apuleius の *Herbarium* の影響をせっかちな現代科学者のあと知恵で要約し、彼はそれを一千年以上にも渡って奴隷のように写しを繰り返された「見分けのつかない絵と、理解できない単語の無駄な作品」例であると示した。

ラテン語や西洋のその土地の言葉で書かれた草本書は、そのほとんどが単にギリシャ語の作品を翻訳、編集したものであった。Dioscorides の草本書のラテン語翻訳は後の多くの中世草本書の基本となった。古典英語で書かれた草本書は学者から多く研究され、そしてそれは多かれ少なかれ表面的にはキリスト教の形を取っているものの、多くの古代ギリシャの初期の形が残っているので特に興味を持たれている。*The Leech Book of Bald* (Royal 12D, British Museum)は最も初期で、最も興味深い 10 世紀の古典英語で書かれた草本書の一つである。それは多くのギリシャの魔法の呪文、儀式を含んでいる。もう一つのギリシャの初期草本書が残ったものとしては *The Lacnunga* であり、これも 10 世紀のものである。(Harleian 585, British Museum) Apuleius の *Herbarium* の Saxon 語訳は多くの写しが現存していて、そしてもう一つの Saxon 語訳はイタリアの Salernitan の *Peri Didaxeon* と呼ばれる医術伝承作品がある。どちらも 11 世紀のものであり、初期の英語草本書に大き

な影響を与えた。Grattan and Singer (1952), Cockayne (1866), Storms (1948)を見よ。そして初期草本書からのギリシャの呪文の短い議論についてはセクション 9.4.2 を見よ。

Singer (1928)はいくつかの植物画の歴史を詳細にたどっている。中世の間、植物画の学校や伝統はごく僅かしか生まれなかった。ほとんどの絵は高度に様式化され、図式され、自然物を直に観察して作られることはなく、また資料を見て写しを作っている間も、編集者は自分の知識との矛盾を訂正しようという考えはなかった。ごくわずかだが、中世草本書のほとんどの絵のような頑ななステレオタイプから解放された注目すべき例外もある。12世紀 Bury St. Edmunds によるラテン語マニユスクリプトには主な伝統的写しの中に、自然な絵が含まれている。編集者は資料の中の古代の、歪曲されて伝わった外国の植物をできる限り彼の庭に生えている植物から特定し、写した絵に地元の植物名を加えることに成功した。英語の植物名が見つからないときは、彼は新しいものを作り空白を埋めた。Singer によると 13 世紀には植物画の様式化は最終的な形に落ち着き、図式された形は硬く黄金の枠の中に納められた。Albertus Magnus (A.D. 1206-1280?)は彼の百科辞典的作品の中の一章「On Plants」の中で偽アリストテレス作品を編集し、そして彼は扱った自然物を直に観察した。

他のマニユスクリプトと同じく草本書を作成する際には、中世の慣例として筆記者または筆写人が絵を描くためにそれぞれの段落の文章に空欄を残しておき、普通それらは彼が写している資料の絵の大きさ、形に一致するようになっている。写本彩色師（訳注：マニユスクリプトに絵を描く人）は、パトロンやマニユスクリプトの所有者が彼に支払うお金があるならば絵を描く。Singer は（我々現代の観点から）この主な筆記者に対する写本彩色人の「利点」は、写本彩色人は比較的教育に染まっていなかったから、筆記人のように強く過去の伝統に囚われてはいないことだとした。Singer はこの理由から、いくつかの中世の植物書の中の絵は文章よりも自然で、正確であると考え、そして彼らの中に新鮮で生き生きとした精神を見いだす。写本彩色人は元の資料の中の意味のない外国の植物を写すよりも、身近な植物を描くことを試みた。いくつかのケースで、筆記者が残した空白が埋められないままのものがある。（おそらく写本彩色人の仕事が終わる前に、所有者のお金が底をついたのだろう。）しばしば絵はかなり後になってから描かれ、それらは異なる大きさ、形であったため上手く空欄と一致していない。この中世の慣習による筆記者が後の彩色人のために空白を残しておくことと、ヴォイニッチ手稿の中の絵と文章の全体的構成を比較することは興味深い。

13 世紀に最低の時期を迎えたあとは、14、15 世紀を通して（少なくとも現代の観察から判断する限りでは）草本書に描かれた絵は自然主義や美しさを増大させた。いくつかの中世後期の草本書に描かれた絵は注目すべき生き生きとした美術的質を持っている。Singer (1928)によって複製されたいくつかの例では、昆虫（トンボ、カブトムシ、イモムシ等）が植物の下に描かれ、少し見ただけでは現代の良い絵と見分けがつかない。1530 年に編集された Otto Brunfels の *Herbarium Vivae Eicones* 中にある（Hans Weiditz が作成した）美しい木版画はその中でも最も美しいものである。残念ながら文章についてはその絵の基準から見るとかなり質の悪いものであり、長く使われた Dioscorides の草本書からの写しで、地中海性の植物について記述したものであり、地元ドイツのライン地方の植物を描いたものと全く矛盾している。1542 年には Leonhard Fuchs (A.D. 1501-1566)の *De*

*Historia Stirpium* と呼ばれるかなり正確に植物を特定した作品が制作され、その木版画は自然を研究したものにに基づき Albrecht Meyer が一連の傑出したものを作り、広く写しが作られた。Singer は初の真の現代草本書は 1551 年 William Turner であると考え、それは我々の現代の感覚から見て、初の植物に対する科学的作品であると記述している。1554 年にはオランダの Rembert Dodoens が優れた植物書を制作した。有名な John Gerard (1663) の *Herball* は Dodoens の作品を元に作られた。しかし 1800 個にもものぼる木版画の絵はヨーロッパで 1590 年に作られたものを用いた。

Tiltman や他のヴォイニッチ研究者が記しているように、それらの植物画を上で触れてきた慣習の限られた植物画やあるいは他のどんな植物画、マニュスクリプトと関連づけることも成功しなかった。感じやデザインについてはいくつかのヴォイニッチ手稿の絵やこれら草本書やヴォイニッチの欄外に描かれた絵と一般的な類似はある。そしてまたヴォイニッチ手稿の絵と、コピーが繰り返された初期草本書の劣化・歪曲した絵とのうわべだけの類似性はある。(しかしヴォイニッチ手稿の植物の様式化はコピーを重ねた結果の劣化というよりも、意図的なものであろう。私はどんな資料からもこのようなコピーが作られたという発見はできなかった。) これらの比較からはどの研究者も納得するような、ヴォイニッチ手稿と良く似た絵、またはこの元になった絵を他の草本書からは見つけることはできなかった。あり得ることは、ヴォイニッチ手稿とよく似た初期のマニュスクリプトまたは印刷本が勤勉な研究者によって発見される可能性が常に存在するというものだ。図 36 に示した錬金術図は少なくとも私の目には、全てではないにしろ、ほとんどの草本書の絵よりも私が限られた類似を調査した限りでは、かなり近い様式と感じを受ける。私の意見としては、錬金術作品を我々の調査に加えるべきで、それ自体は草本を扱っているとは考えられないが、しかし錬金術的存在の記号(太陽、月、金属、化学薬品等)を考えるべきであらう。